

# むいかまちふじつか さかのうえ 六日町藤塚遺跡・坂之上遺跡出土品展示会



旧石器時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	飛鳥時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代	南北朝時代	室町時代	安土桃山	戦国時代	江戸時代	明治時代
-------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------

土器集積遺構(六日町藤塚遺跡 SX79)

周堤帯が残る竪穴建物(六日町藤塚遺跡 SI30)

日時：令和元年 7 月 29 日（月）～ 8 月 4 日（日）

主催：国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所

新潟県教育庁文化行政課 公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

## 1 はじめに

これまで（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団では、国道 17 号六日町バイパスの建設に伴い、長表東遺跡・北沖東遺跡・余川中道遺跡・六日町藤塚遺跡・坂之上遺跡の発掘調査を進めてきました。

六日町藤塚遺跡・坂之上遺跡は、標高 178～179 m の庄之又川の扇状地に位置します。平成 29 年度から発掘調査を進めており、昨年度の調査では古墳時代後期前半（6 世紀前半頃）の周堤帯が残る竪穴建物を発見し、竪穴建物の作り方を知る手



六日町藤塚遺跡・坂之上遺跡と周辺の遺跡

がかりが得られました。また、祭祀に関係すると考えられる土器が集中する箇所（土器集中遺構、土器集積遺構）やたき火跡などが見つっています。

遺跡周辺は古墳時代中期から後期の集落、古墳群が点在するエリアで、県内屈指の初期群集墳である県指定史跡の飯綱山古墳群、蟻子山古墳群と余川中道遺跡、六日町藤塚遺跡といった古墳群とほぼ対応する時期の集落・生産遺跡の存在が確認できる県内でも稀有な地域です。今回の発掘調査の成果はそれらの遺跡との関係を考え、当地域の往時の社会を考えるうえで重要なものといえます。本出土品展示会では、昨年度実施した六日町藤塚遺跡・坂之上遺跡発掘調査で見つかった貴重な出土品を中心に、皆様にご覧いただきます。

## 2 周堤帯が残る竪穴建物-六日町藤塚遺跡 S I 30-

竪穴建物とは地表面を掘り窪めて床面を設ける建物で、周堤帯とは掘った土を周囲に積み上げて堤状にしたものです。新潟県内で、周堤帯の検出は、県内の古墳時代竪穴建物では三条市吉津川遺跡に次いで二例目の事例です。竪穴建物は東西・南北方位で構築され、床面の規模は南北 6.7m、東西 6.2m のほぼ正方形です。周堤帯は断面観察の結果から幅約 3m、高さ 16~30cm あることを確認しました。床面には柱穴があり、床面中央のやや西寄りには炉の跡と考えられる赤く焼けた土が集中しています。建物内に堆積した土からは土師器、直径 3~4mm の白玉と呼ばれる石で作られたビーズや骨片（小さな獣の骨？）などが出土しています。出土した土器は古墳時代後期前半、およそ 6 世紀前半頃のものなので、その頃に作られた建物と考えています。



周堤帯が残る竪穴建物（S I 30）



遺物の出土状況

## 3 土器捨て場か？それとも祭祀場か？-六日町藤塚遺跡 S X 44-

周堤帯が残る竪穴建物の近くからは、ほぼ同じ時期の土器の破片が集中して出土した地点が見つかりました。このようなところを土器集中遺構と呼んでいます。

ここから見ついている土器片は、その多くが 5 cm 程度と大きさが均質であることから、土器を意図的に割った可能性がありません。また、土器片とともに白玉が見ついていることから、単純な土器捨て場とは考えにくいです。土器の大半は土師器で壺、甕、碗、高杯が確認されます。また、土師器の中には胎土が比較的精緻な資料が一定量含ま



須恵器を含む多数の土器片が出土（S X 44）

れることや、直径が 20 cm を超える大型高杯といった通常の集落遺跡から出土しないものが含まれていることが特徴的です。須恵器は、貯蔵用の甕 2 個体分を検出しており、いずれも胎土分析から猿投窯（愛知県）で作られた可能性があります。このような状況から、この土器集中遺構が、単なる土器捨て場ではなく、土器破碎を伴う祭祀行為で使用した土器などを廃棄した場所である可能性を考えています。

#### 4 古墳時代の祈りの姿-六日町藤塚遺跡 S X 79-

古墳時代中期末～後期初頭、6 世紀初頭頃の層からは、長軸 1.85m×短軸 1.05m の範囲に、土師器碗・甕・鉢・高杯、手づくね土器、須恵器ハソウが集積された状態で出土しました。このような完形の土器が集積されたところを土器集積遺構と呼んでいます。この場所からは土器以外にも、祭祀行為で使われる滑石製の模造品や白玉、管玉などが見つかっています。

ここで見つかった土器は、使用された痕跡がなく、作りも非常に良いものが多いことから祭祀行為のために特別に作られた可能性が高いと考えられます。このような土器を集積した遺構は、集積規模の大小はありますが、群馬県渋川市金井東裏遺跡、同高崎市下芝天神遺跡など、同時期の群馬県域の集落遺跡で確認できます。



土器集積遺構 (SX79)



手づくね土器に入った石製模造品

#### 5 古墳時代後期における鉄器生産の可能性-坂之上遺跡 S R 38-

古墳時代後期前半、6 世紀前半頃の自然流路からは、多量の土器とともに鉄器生産で使われる土製の羽口（鍛冶炉に風を送り込むための管）と鉄滓（鍛冶炉で生じる不純物、スラグ）が出土しました。これらは、後世の流れ込みの可能性もあり、検討の余地がありますが古墳時代後期に小規模な鉄器生産（小鍛冶）を行っていた可能性を示しています。

また、この自然流路からは祭祀行為で用いられる石製模造品や手づくね土器も出土していることから、水辺での祭祀行為が行われたと考えられます。



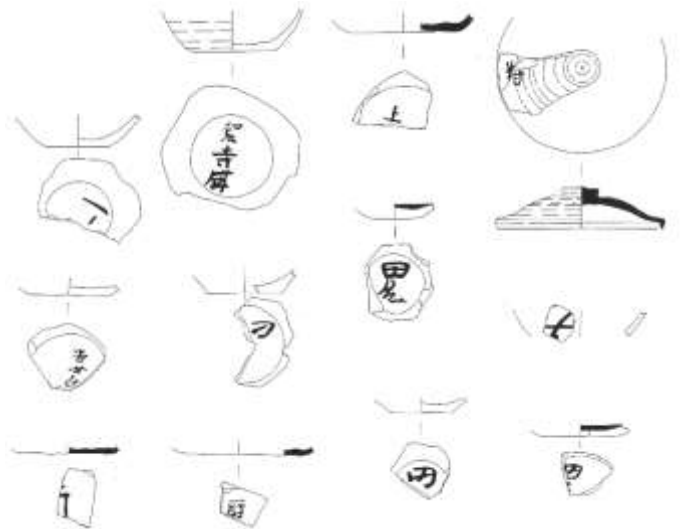
羽口や鉄滓が出土した自然流路 (SR38)

## 6 古代寺院の可能性「賀寺厨」墨書土器-坂之上遺跡（六日町教委調査）-

六日町教育委員会（現南魚沼市教育委員会）による坂之上遺跡の発掘調査では、平安時代の土器に文字が墨書された「墨書土器」と呼ばれるものが見つかっています。とりわけ注目されるのが、「賀寺厨」の墨書きが入った土師器杯です。「賀寺」は、正式な名称ではなく、「賀〇寺」の略の可能性が高く、遺跡周辺が魚沼郡賀彌郷に比定されることから考えて「賀彌寺」の可能性が高いと考えています。「厨」は、古代では調理場を指しますが、「厨」と記された墨書土器は、郡家に付属する寺院から出土することがあることから、遺跡周辺に郡名寺院の寺格に相当する寺院が存在した可能性があります。



六日町教育委員会による坂之上遺跡発掘調査



坂之上遺跡で出土した墨書土器



六日町藤塚遺跡上空から八海山方面を望む